

## アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取市立浜坂小学校

- (1) アドバイザーの所属・氏名 横浜国立大学教育人間科学部教授 石田淳一先生
- (2) 実施期日 平成27年 6月24日(水)・平成27年 11月4日(水)
- (3) 実施場所 鳥取市立浜坂小学校
- (4) 研究テーマ及びテーマ設定理由

本校は、「志をもち、すすんで未来を切り拓く、心豊かでたくましい子どもの育成」という学校教育目標のもと、算数科を研究の中心にすえ取り組み、3年目となる。それまでの背景には、人権教育アンケートの結果から表れる自尊心の低さ、児童同士のコミュニケーション力の不足などの実態から、人権教育及び道徳研究の研究に全職員で取り組んできた歩みがあった。4年間の研究成果が表れ、児童は、相手の立場に立って考えられるような思いやりの気持ちが育ってきた。そして、どの学級も落ち着いて授業に取り組み、ペア学習や話し合いの中で、児童同士がかかわり合う素地が育ってきた。かかわり合うことを大切にされた道徳教育や学級経営を基盤とした上で、算数科を研究教科にすえ、研究テーマを「つながり合い学び合う子どもの育成」とし、全職員で、児童が「分かった できた 楽しい」と感じるとともに、学び合う授業づくりをめざして研究を進めてきた。

昨年度県算数診断テストの結果を見ると、学習状況はほぼ鳥取市の平均並みである。だが、算数の意識調査の結果では、「算数が好き」「算数の授業が楽しい」と答えた児童は、ほぼ昨年度の鳥取県の平均を上回る結果となっている。このことは、昨年度までの「算数が好き・楽しい」と言える児童の育成をめざし、学級経営を基盤としながら授業改善を行ってきた成果と言える。しかしながら、「算数がよく分かる」「算数に自信がある」と答えた児童はまだまだ少なく、算数の自信に結びついていない実態が伺われる。意欲的に話し合い活動に取り組み、考えを深め合って、学びを確かなものに行っている児童がいる一方で、学習の臨み方が受身な児童や学習内容が定着しがたく、じっくりと時間をかけて取り組むことが苦手な児童もいる。

そこで、横浜国立大学石田淳一教授の理論に学びながら、ペア学習やグループ学習などのかかわる活動を多く取り入れ、これまでの研究の成果のさらなる充実をめざして、児童が「分かった できた 楽しい」と感じるとともにつながり合い学び合う授業づくりについて研究を進めていきたいと考えた。

### (5) 研究の取組

#### ①算数授業を学級経営につなげる。

4月の算数の授業開きでは、「分からないことが分からないと言える。」「みんなのできるようになる」とする意識を持って、あたたかい人間関係を基盤とした算数科の授業をめざしていくことを児童と共に確認し合うようにした。学び合いのイメージを共有する指導として、研究先進校の授業の映像を見たり、算数の授業開きの時間を公開したりして、学び合いのイメージを共有するようにした。

#### ②算数シナリオを活用した話し合い指導を取り入れる。

児童が主体的に話し合うためには、自分の考えを絵や図を使って分かりやすく伝える、友達の発言につなげるなどの話し合いのスキルを指導していく必要がある。そこで、4、5月には、各学年で、横浜国立大学石田淳一先生の理論をもとに、算数シナリオを活用した話し合い指導を取り入れた。さらに児童一人ひとりに「学び合いカード」を持たせ、毎時間の学習で話す・聴くことを意識できるようにし、話し合いのスキルを高め、確かな学力につながるように支援した。

#### ③かかわり合う活動を取り入れた授業展開の工夫をする。

本校では、石田先生の理論に学び、積極的にペア学習・グループ学習を1時間の授業展開の中に取り入れてきた。また、石田先生の講義では、児童が興味や関心を持ち、自分たちで問題を解決しようとする意欲を引き出せるような導入の工夫、児童が考えてみたくなるような問題や問題提示の工夫について分かりやすく教えていただき、授業の中で実践をしてきた。かかわり合う活動を取り入れた授業展開の流れを確かめ合い、「気づき」「見通し」「考える」「話し合う」「まとめる」「確かめる」「振り返る」のカードを作り、全学級で実践した。

また、「算数の学び合いの進め方」を全学級に提示し、それらをもとに授業展開が工夫できるようにした。

④ グループ学習後の考えの取り上げ方を工夫する。

グループのみんなが主体的に学習に参加し、学び合うグループ学習をめざし、「グループ学習の約束」を各学級に提示し、教師と児童が共にグループ学習の約束を意識しながら取り組んだ。また、本年度は各学年ごとに校内授業研究会を行い、本時のねらいに即した確かな力がつくように、グループ学習後の考えの取り上げ方を工夫した。

⑤ 自分の学びを確かめ、振り返る時間をつくる。

かかわり合う活動を取り入れ、児童に伝える力がついてくると、見通しやペア学習やグループ学習の場面に多くの時間がかかり、確かめる時間が取りにくいという悩みの声が上がってきた。そのため、石田先生から学んだ授業展開の「与える足場」「つくる足場」「任せる足場」の3つの授業設計を確認し合い、単元や1時間の学習のねらいに応じた学習展開の工夫やペア・グループ学習をどう取り入れるのが効果的か研究を進めているところである。適用題では、今日学んだことをしっかりと確かめることができるように問題を工夫し、ノートに学んだ足跡が残るよう研究を進めているところである。

⑥ 基礎学力の向上を図る。

本校では、清掃活動終了後の10分間、パワーアップタイムの時間を設定している。「今月の詩」や各学年の漢字を音読する時間と、基本的な学習内容の定着を図るための時間を設定している。全学年が共通のプリント集を利用し、系統的に基礎学力が定着し、学力が向上することができるような手立てをしている。

(6) 成果(◎)と課題(●)

◎ ペア学習やグループ学習などのかかわる活動を積極的に取り入れた授業展開が定着してきた。ペア学習やグループ学習を楽しんでいる児童が増え、意欲的に算数科の授業に臨むようになった。

◎ 児童が「つなぐ意識」を持つことができるようになった。「話し方の基本」「聴き方の基本」を学級に提示したり、「学び合いカード」を一人ひとりが持つことで、あたたかい反応ができたり、友達同士で発言をつないだりすることができるようになってきた。また、友達の発表をよく聴いたり、友達同士の発言のつながりをよく考えて発言したりすることが少しずつできるようになってきている。

◎ 「みんなで学ぶ」・「みんなでできるようになろう」とする意識を持つことができるようになった。児童の毎時間のふりかえりや算数アンケートの中に「友達の考えを聴いて分かるようになった。」「初めは分からなかったけれど、友達が説明してくれたので分かった。」などの記述が多く見られるようになった。周りの友達が困っていないか気にかける姿が多くみられるようになった。

◎ 中ノ郷中学校区小・中合同教育研究会において、全学級が算数科の授業を公開し、全体会では、研究の取組の概要及び成果と課題について発表した。全学級が同じ方向を向いて実践していることや子どもたちの協同学習での姿について良い評価を得た。

● 各時間のねらいに応じた個々の力となっているかどうかということには課題が残る。本時のねらいが達成されるような適用題の工夫や個々への手立てについて研究が必要である。

● 誰もが主体的に参加しているグループ学習やグループ学習後の話し合い活動とは言い難い。グループ学習にだれもが主体的に参加し、グループ学習後に主体的に話し合いに参加することができる姿をさらにめざしていく必要がある。

● 学習の足跡が残るようなノートの工夫が必要である。話し合い指導を進め、話し合いのスキルが少しずつ育ち、話し合いは活発に行われるようになった反面、学びの後もノートに残したり、自分の学びをふりかえったりする時間が取りにくいという課題もある。単元や1時間のねらいに合わせた授業設計を今一度見直し、どの場面でペア・グループ学習を取り入れていくことが効果的か研究を進めているところである。

● しっかりと自分の学びを確かめることができるような適用問題やふりかえりの工夫が必要である。

● 基礎学力の向上 基本的な計算の力の積み上げが大切である。(個々への手立て)

あたたかい共感的な人間関係の中で、ペア学習やグループ学習でかかわり合う活動を取り入れながら、自分の考えを伝え、考えをつなぐことを楽しいと感じ、「わかった」「できた」と個々の力や自信につなぐことができるような算数の授業をめざし、今後もさらなる研究を続けていきたい。